

授業科目名： 聴覚障害の心理・生理・病理Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 原田公人・新谷朋子
			担当形態： オムニバス
実務内容 (実務家教員の場合)			
科目	特別支援教育領域に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 (中心領域：聴)		
「学位授与の方針」との関係 DP4.個人や社会にとって必要な課題の解決のため、自律的な課題探究能力を身につけ実践することができる(実践力) DP5.共生社会創造の目的のために、様々な分野について絶えず学び続ける態度を持つことができる(継続力)			
授業のテーマ及び到達目標 (1)聴覚障害児の心理学的知見を得、これに基づいた聴覚障害児に対する理解を深める。 (2)聴覚障害教育に関わる病理学的理解を基に、聴覚障害児教育や聴覚学分野における聴覚活用の意義や最近の聴覚補償技術を理解する。			
授業の概要 本授業では、主として聴覚障害児の心理特性と精神保健、コミュニケーション方法の観点から実践に必要な知識を学習する。また、オージオロジーの観点から、補聴器や人工内耳の基礎について学習する。さらに、聴覚障害児・者の社会生活等の視点から聴覚障害教育の今日的課題を考える。全体を通して、各領域の相互作用の理解を図りつつ、家庭や多機関連携についても理解する。			
授業計画 第1回：聴覚の発達(担当：原田) 第2回：聴覚障害：聴覚的認知(担当：原田) 第3回：聴覚障害児の心理特性と精神保健(担当：原田) 第4回：聴覚障害児・者の障害認識(自己認識)と社会的受容(担当：原田) 第5回：コミュニケーション方法(手話、指文字、キュードスピーチ)(担当：原田) 第6回：手話とろう文化(担当：原田) 第7回：聴覚の活用(オージオロジー)(担当：原田) 第8回：聴覚リハビリテーション(補聴器)(担当：新谷) 第9回：聴覚リハビリテーション(人工内耳)(担当：新谷) 第10回：聴覚障害教育におけるICT活用(補聴援助システム)(担当：原田) 第11回：聴覚障害教育における情報保障(担当：原田) 第12回：聴覚障害児の学校生活と多機関連携(担当：原田) 第13回：聴覚障害児の保護者(家族)支援と多機関連携(担当：原田) 第14回：聴覚障害児の社会生活と多機関連携(担当：原田) 第15回：ライフステージにおける聴覚障害の影響(担当：原田)			
スクーリングでの学修			
テキスト 1. 四日市章/鄭仁豪/澤隆史 編/ハリー・クノールス/マーク・マーシャーク 編(2018)『聴覚障害児の学習と指導 発達と心理学基礎』明石書店、978-4750347301 2. 宍戸和成/原田公人/庄司美千代 編(2023)『聴覚障害教育の基本と実践』慶應義塾大学出版会、978-4-7664-2862-9			
参考書・参考資料等 特別支援学校学習指導要領等(平成29年4月公示・平成31年2月公示) https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/main/1386427.htm			
学生に対する評価 レポート評価(50%)、科目修得試験(50%)			